

# 日本軍の住民虐殺 中国・平頂山事件 90周年記念集会

## 「記憶の継承」使命に市民の交流

1932年9月16日、日本軍は中国の住民約3000人を虐殺する平頂山事件を起こしました。事件から今年で90年。教訓を学び直し、二度と戦争の惨禍を繰り返さないために。被害者が起こした訴訟の弁護団や支援者らが10日、東京都内で記念集会を開きました。

本吉真希記者



平頂山事件90周年記念集会で報告する泉澤章弁護士＝10日、東京・中央区



平頂山事件は、日本の中国侵略の発端となった柳条湖事件（満州事変）31年（9月）から1年後に起きた。事件前夜、抗日義勇軍が日本の国策会社・南満州鉄道経営の無順（ぶじゆん）炭鉱を襲撃。日本軍は炭鉱に近い平頂山村の住民が義勇軍に通じていると断じ、崖下に住民を集めて虐殺。焼き払った遺体を埋めて事件を隠滅しました。

96年、3人の被害者が日本政府に謝罪と賠償を求め、日本で裁判を起しました。最高裁で敗訴が確定（2006年）しましたが、被害事実は認定されました。

弁護団は「私たちが一番に考えたのは、事件を生きた人たちの体験をどう法廷に示すかでした」と当時を振り返りました。事件当時7歳で家族を殺された原告の莫徳勝さん（05年死去）の体験

（別項）を紹介。「いまでも証言にふれると、いたたまれない気持ちになる」と話しました。弁護団は事実を裏付けるため、中国での調査を重ねました。「訴訟を機に中国側でも平頂山事件を見直す機運が高まった」と泉澤さんは語ります。

### 被害者・莫徳勝さんの証言

#### 機銃の一斉掃射で前列からバタバタと倒れていった

機関銃の一斉掃射が始まり、前列の人からバタバタと倒れていきました。父は「危ない」と言って、私の頭を押さえて伏せさせました。母と祖父母は伏せていました。機関銃の弾が父に当たりました。その後、銃声や泣き叫ぶ声小さくなっていきました。日本兵は少しでも息のある人を見つけると、何度も何度も銃剣でどめを刺していました。

訴訟終結後も日中で市民の交流が続いています。「虐殺事件をきっかけに出会った私たちが、どう平和を築いていくのか。そのために平頂山事件がどういう意味を持つのか。いつも真剣に議論してきた」と泉澤さん。ロシアのウクライナ侵攻にふれ「民間人こそ被害を受ける」と強調。「莫さんたち被害者が生前求めた『記憶の継承』を私たちの使命として、これからも活動していきたい」と語りました。

## 人間として許されない集落皆殺し

駿河台大学名誉教授 井上久土さん（講演要旨）  
日本中国友好協会会長

井上久土・駿河台大学名誉教授（日本中国友好協会会長）が記念集会で講演しました。要旨を紹介しします。



いのうえ・ひさし＝1950年生まれ。専門は中国近現代史。近著に『平頂山事件を考える』

虐殺の前夜、抗日義勇軍が満鉄経営の撫順炭鉱を襲撃しました。その報復として日本軍は、襲撃部隊が通過した集落の住

民を皆殺ししてしまいました。これが平頂山事件です。幼児や女性、高齢者も殺されました。国際

人道法に反するだけでなく、人間として許されない行為です。虐殺された人数は正確

にはわかりませんが、平頂山集落には四百数十世帯、約3000人の住民が住んでいました。その大部分が殺されたとみられます。事件から2カ月後、上海で発行されていた「新聞報」は、撫順の三つの村で3000余人が虐殺されたと報じました。現場を突撃取材した米国通信社の特派員、エドワード・ハンターは2700人と伝えていま

す。1932年12月2日の米紙に掲載されたハンターの記事にはこう書かれています。「私は虐殺の行われた一角の丘の斜面に立っている。死体は数インチ埋められただけでは、腐臭を漂わせないわけにはいかない」。彼の報道以後、アメリカでは国際調査を求める声が上がりました。

国際連盟では中国代表が平頂山事件を取りあげ、日本を非難しました。当初、日本政府は「事実無根にして皇軍の名譽を毀損（きそん）する」と虐殺を全面否定しました。国際的に問題になると「自衛処置にすぎず」とウソの説明をしました。当時、国際連盟で問題になったにも関わらず、日本は結局国際連盟を脱退し、平頂山事件の解明は戦後までされませんでした。

戦争で最も被害を受けるのは、戦場となった場所に住んでいる一般人のひとです。これは現在のウクライナの戦争も同じです。